

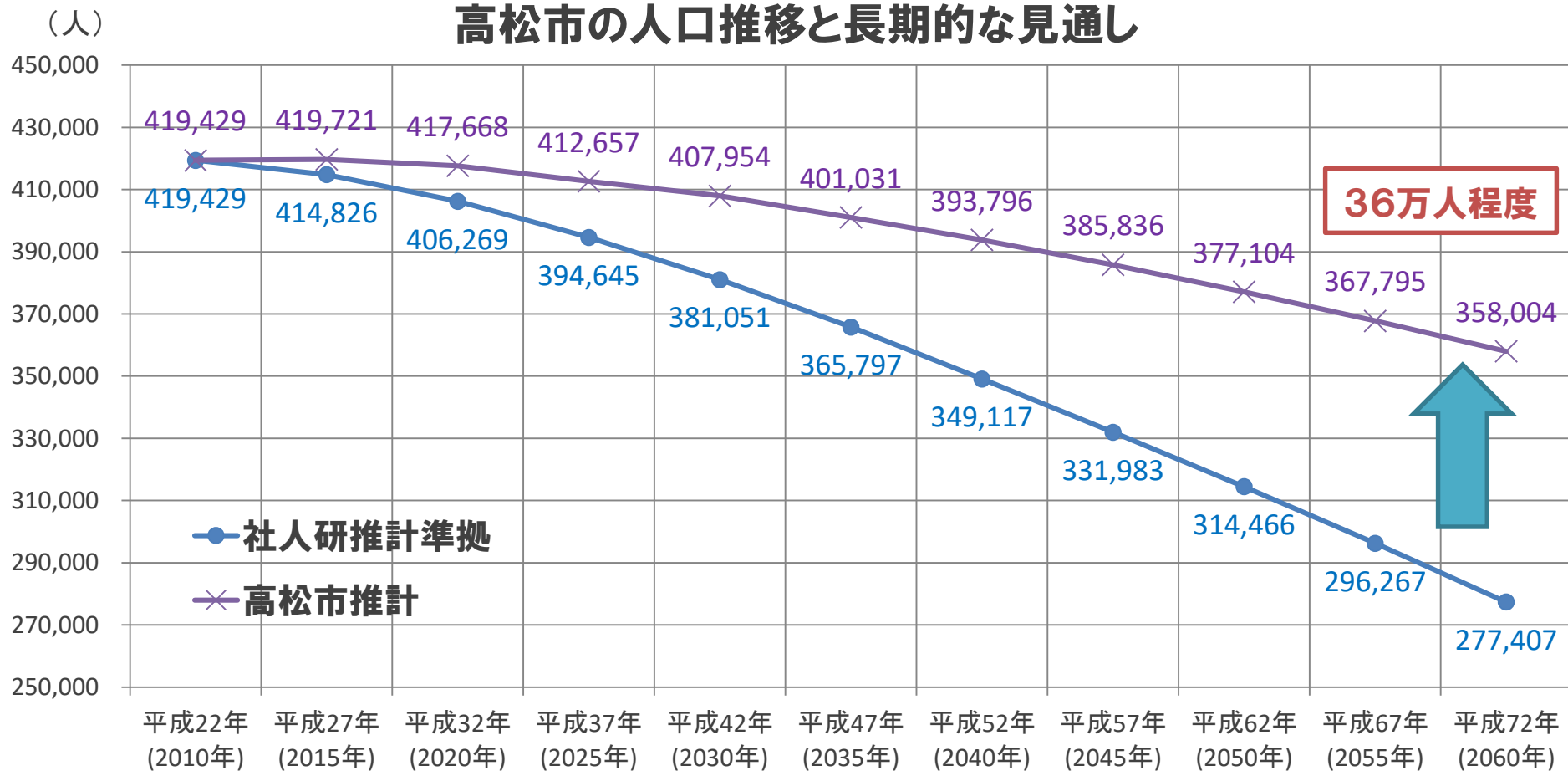
# 高松市の取組

# 人口の将来推計

## 本市の将来展望

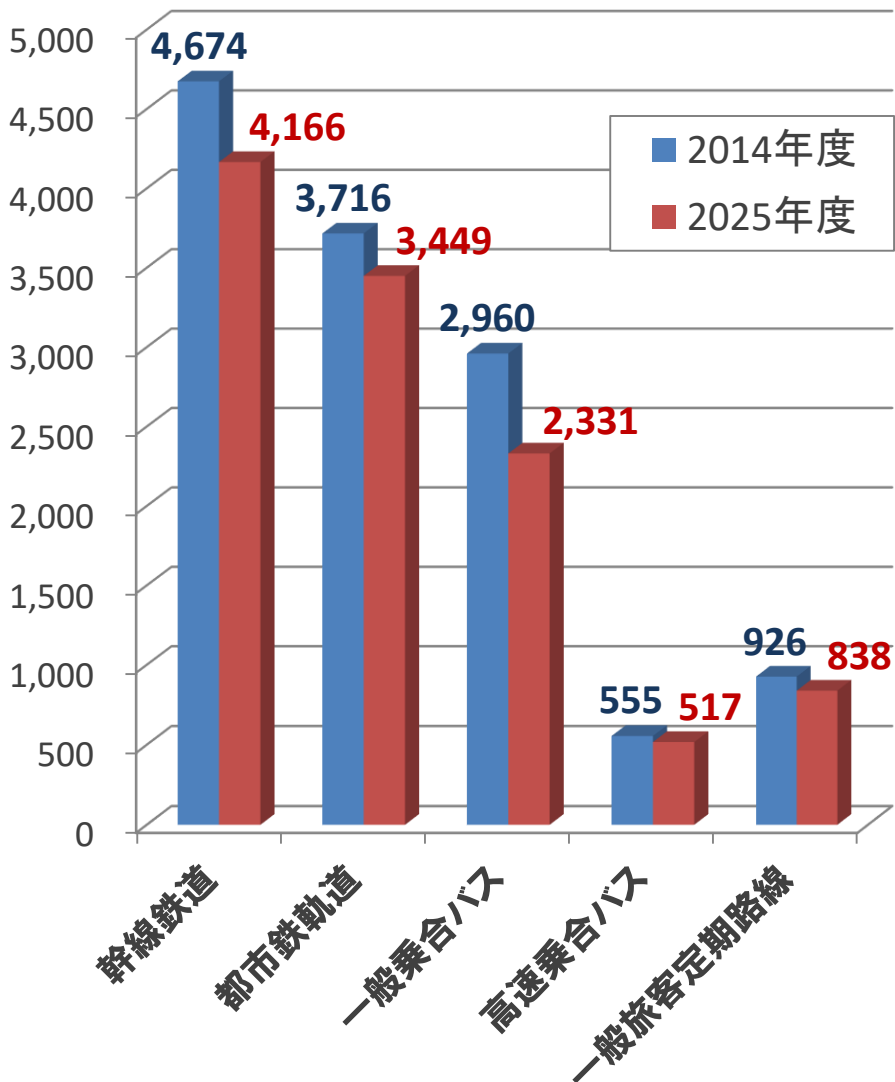
国・県の長期ビジョン及び本市人口ビジョンの策定に当たり実施した分析や、市民等へのアンケート調査等を踏まえ、今後、本市が目指すべき将来の人口推移と長期的な見通しを設定。

### 高松市の人口推移と長期的な見通し



(出典: H27.10「たかまつ人口ビジョン」より)

## 公共交通輸送人員の 2025年度の推計

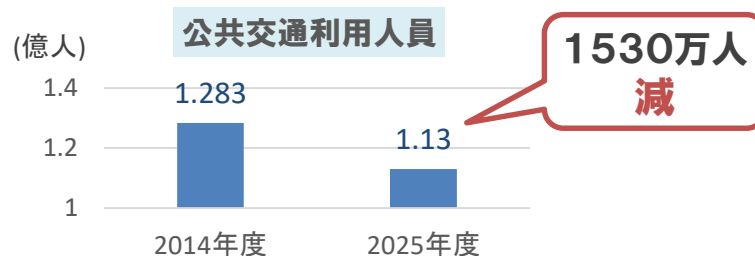


(四国運輸局提供)

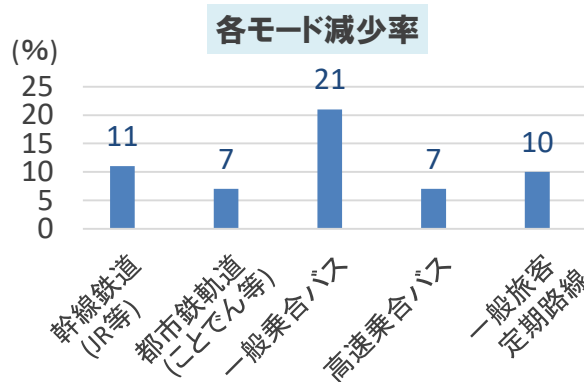
## 四国運輸局推計

### ● 四国運輸局の将来推計

外国人観光客数が2014年度と同じ24万人と仮定。



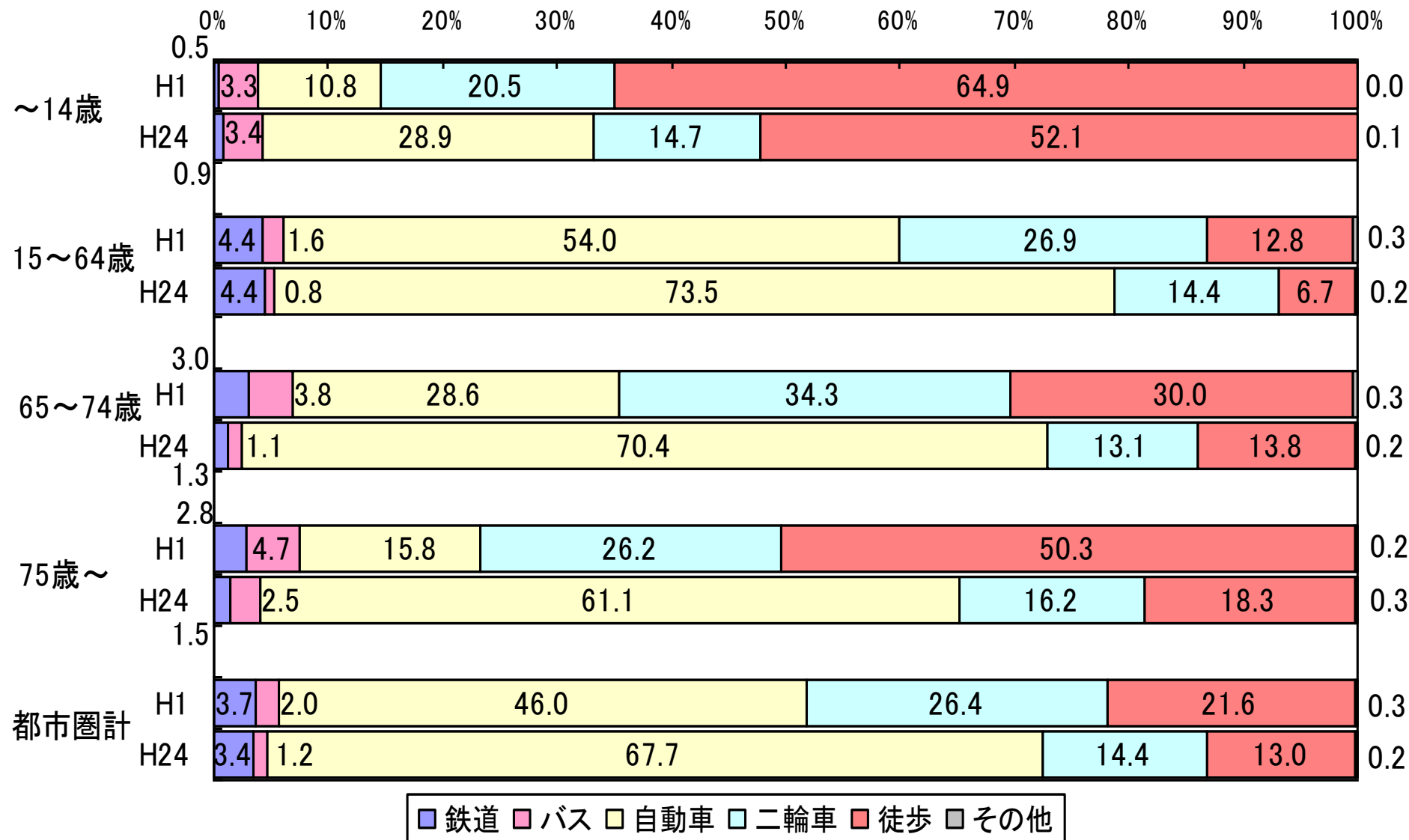
### ● 2025年度の減少率(2014年度比)



### ● 地域住民の利用促進に加え、交流人口の増大による需要喚起が必要。

利用者の増加に向け、広域的なネットワークの検討を進めていかなければならない。

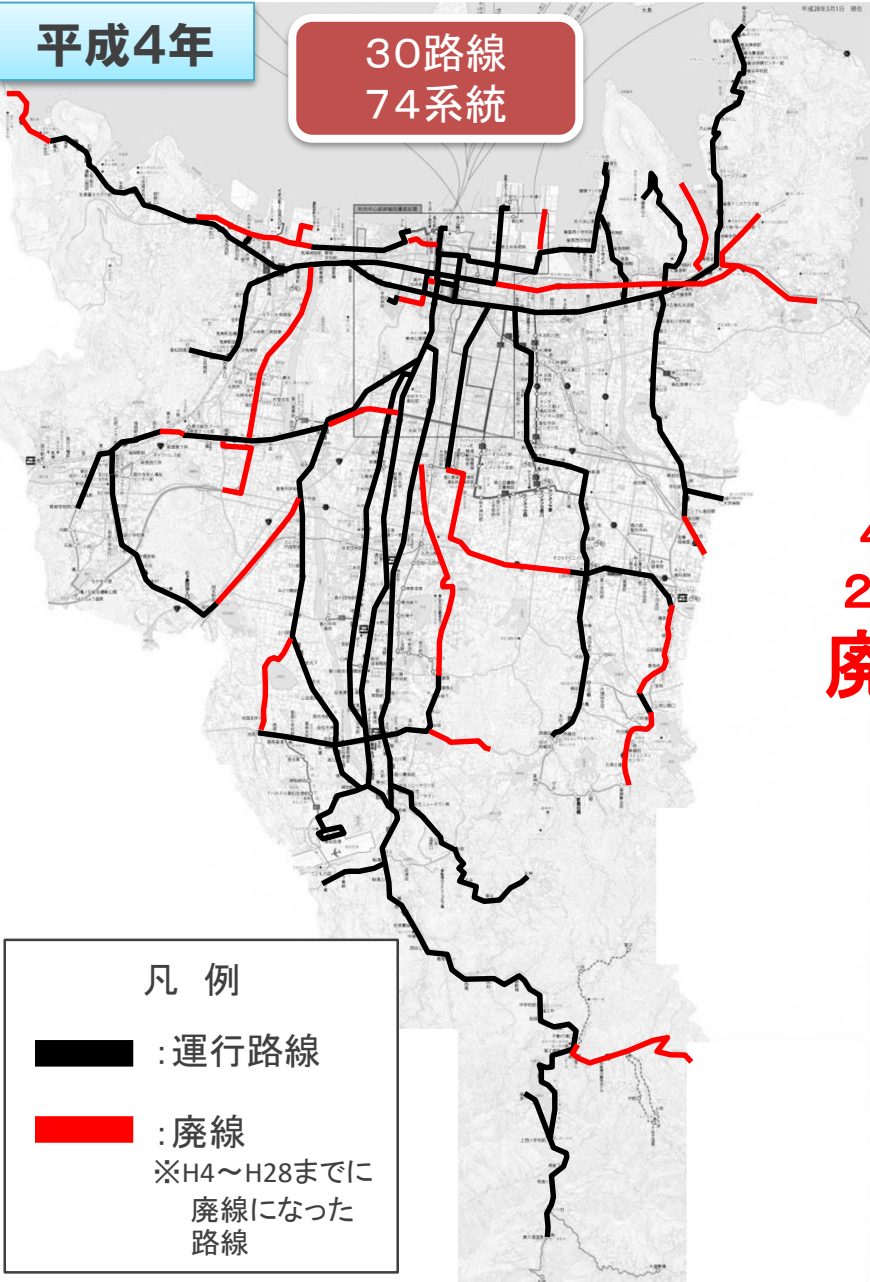
# 代表交通手段分担率（パーソントリップ調査より）



# 高松市のバス路線（全体）

平成4年

30路線  
74系統



凡例

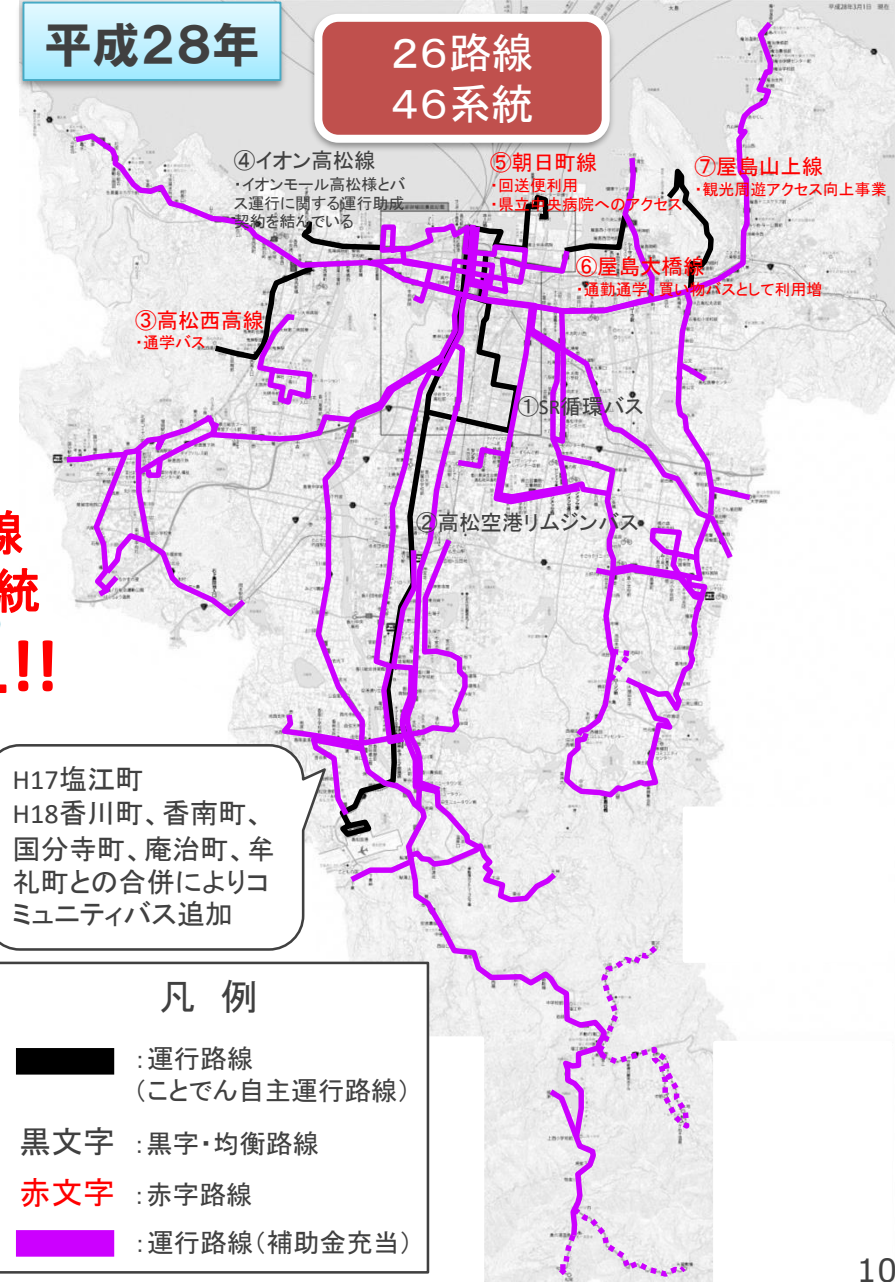
■ : 運行路線

■ : 廃線

※H4～H28までに  
廃線になった  
路線

平成28年

26路線  
46系統



4路線  
28系統  
廃止!!

H17塩江町  
H18香川町、香南町、  
国分寺町、庵治町、牟  
礼町との合併によりコ  
ミュニティバス追加

凡例

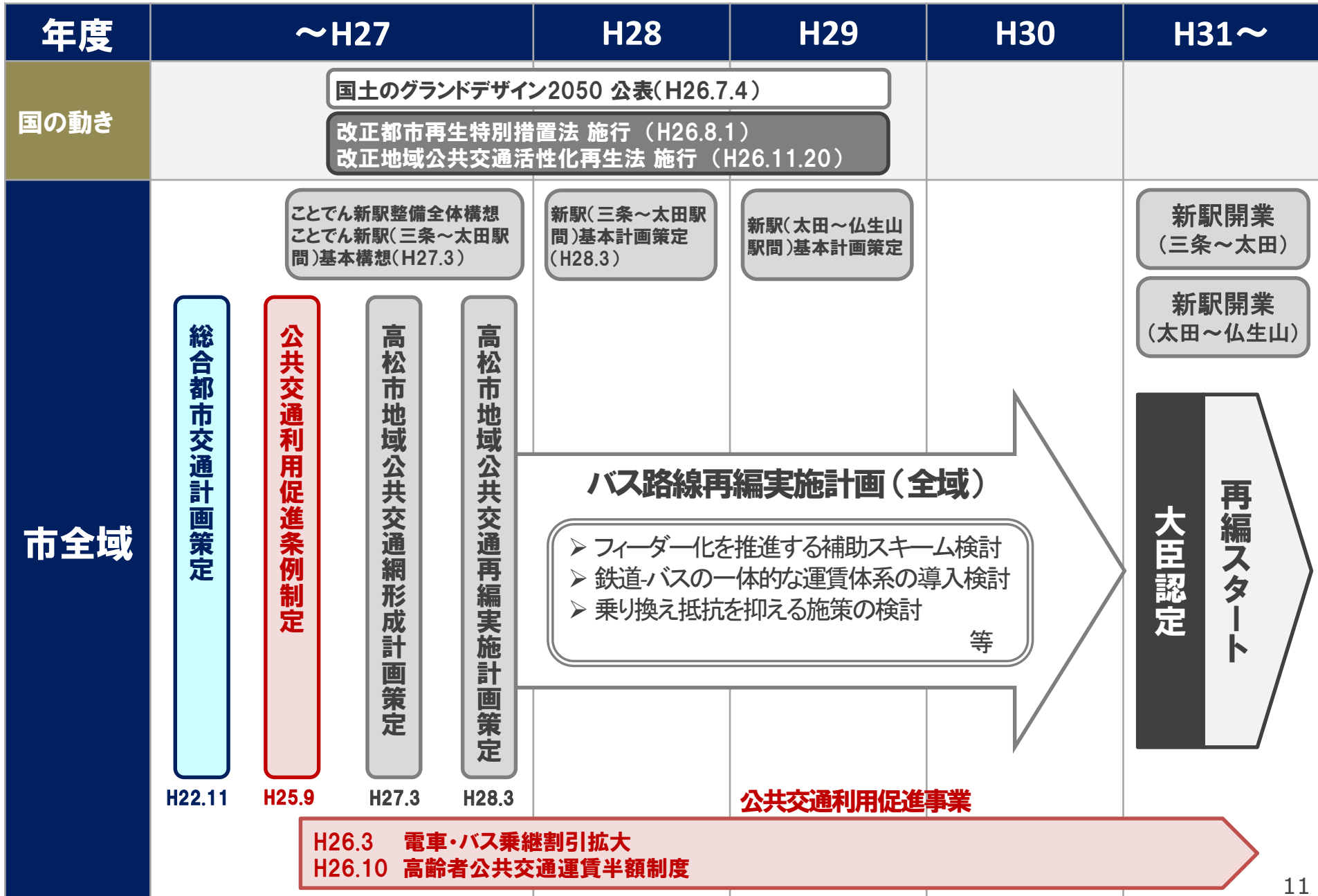
■ : 運行路線  
(ことでん自主運行路線)

黒文字 : 黒字・均衡路線

赤文字 : 赤字路線

■ : 運行路線(補助金充当)

# 高松市の取り組み



## バス路線再編実施計画(全域)

- フィーダー化を推進する補助スキーム検討
  - 鉄道・バスの一体的な運賃体系の導入検討
  - 乗り換え抵抗を抑える施策の検討
- 等

大臣認定

再編スタート

# 高松市公共交通利用促進条例（H25. 9. 27施行）

## 責務

### 市

公共交通の維持・改善が可能  
なまちづくりを推進し、利用促  
進に係る施策を実施します

### 市民

過度の自家用車利用を控え、公  
共交通を積極的に利用します

## 協働

### 事業者

従業員へ意識啓発を行い、  
公共交通の利用を推進します

### 公共交通事業者

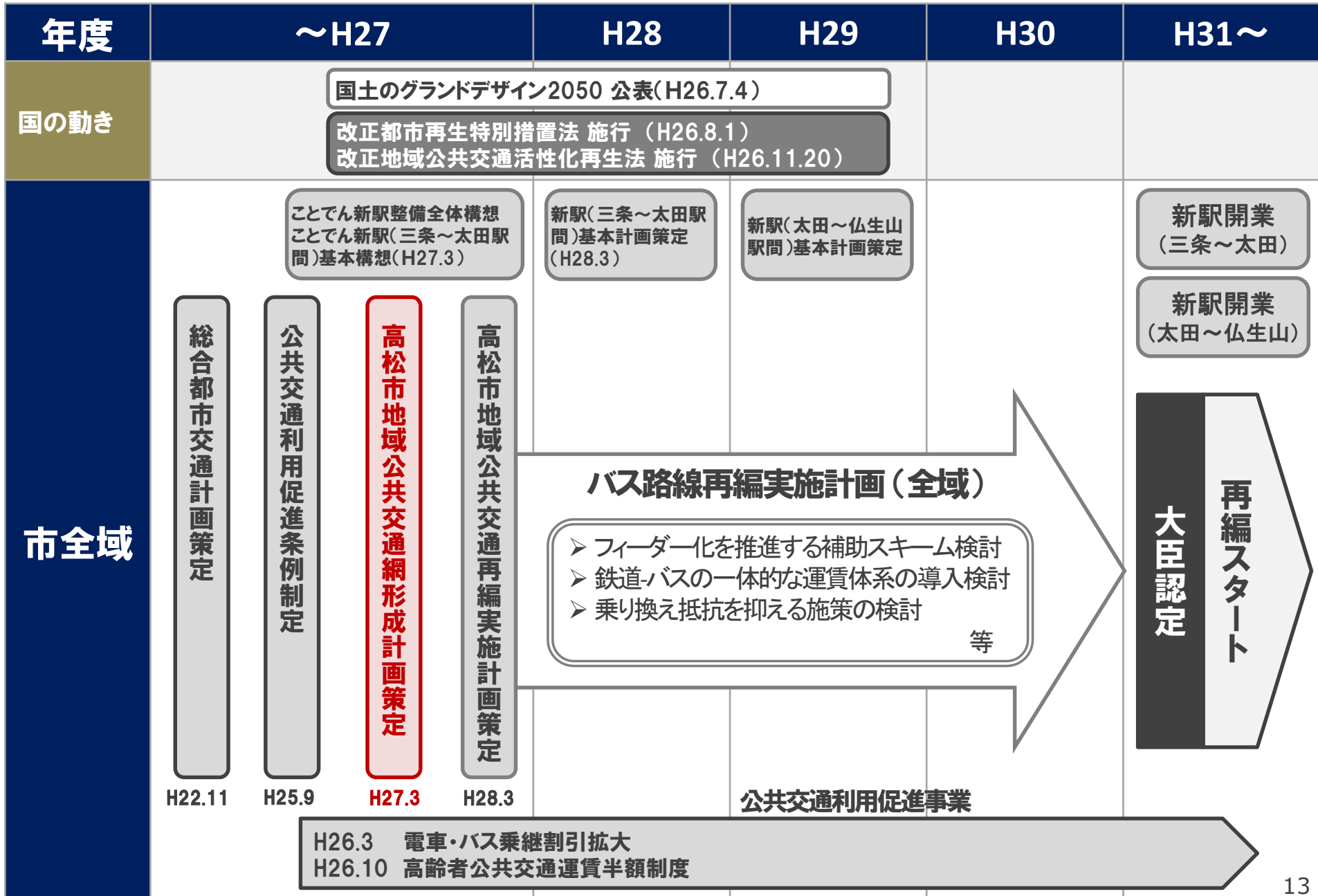
事業の効率化、公共交通の利  
便性向上に努めます

## 基本方針

- ①公共交通の利便性の向上および積極的な利用の促進
- ②地域の特性に応じた効率的な機能分担および連携
- ③公共交通優先の交通体系への転換
- ④ユニバーサルデザインに配慮した公共交通
- ⑤教育等を通じた公共交通に関する意識醸成

安全かつ快適で人と環境にやさしい都市交通の形成  
「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現

# 高松市の取り組み





# 公共交通ネットワーク再構築の考え方

## 現状

- 多くのバス系統が**中心部まで運行**しているため、**鉄道およびバスと平行して運行する区間も多く、かつ、運行距離が長い。**

このまま将来を迎えると...

- 鉄道とバスともに利用者数が減少
- 利用者数が少ない傾向にある郊外部からサービス低下、さらには廃線となる可能性。



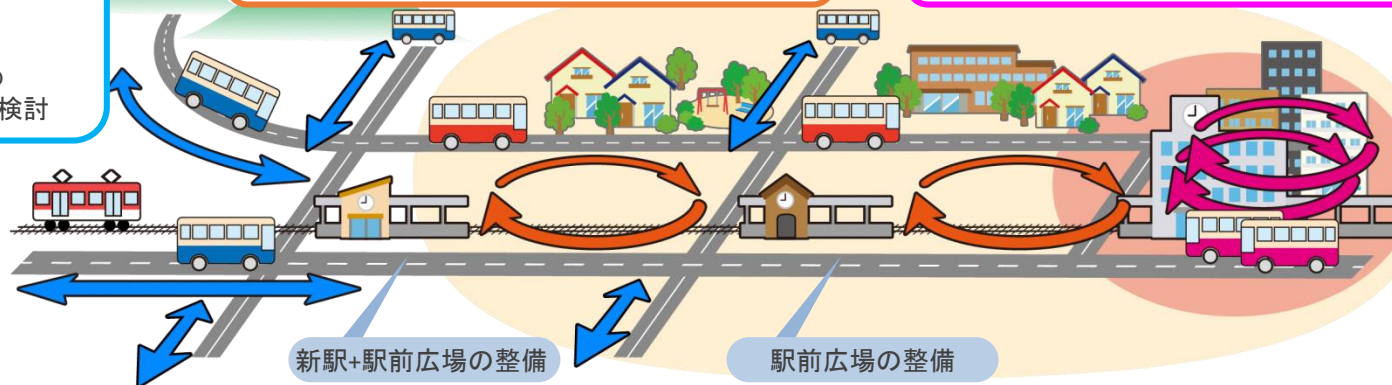
## 将来に向けた公共交通NW再構築の具体的考え方

- ① 鉄道を公共交通幹線軸と位置付け、平行して運行するバス路線区間の見直し  
⇒ 郊外部と公共交通結節拠点間のフィーダー路線化

※鉄道との乗継が必要となるためICカードを活用した運賃体系を検討

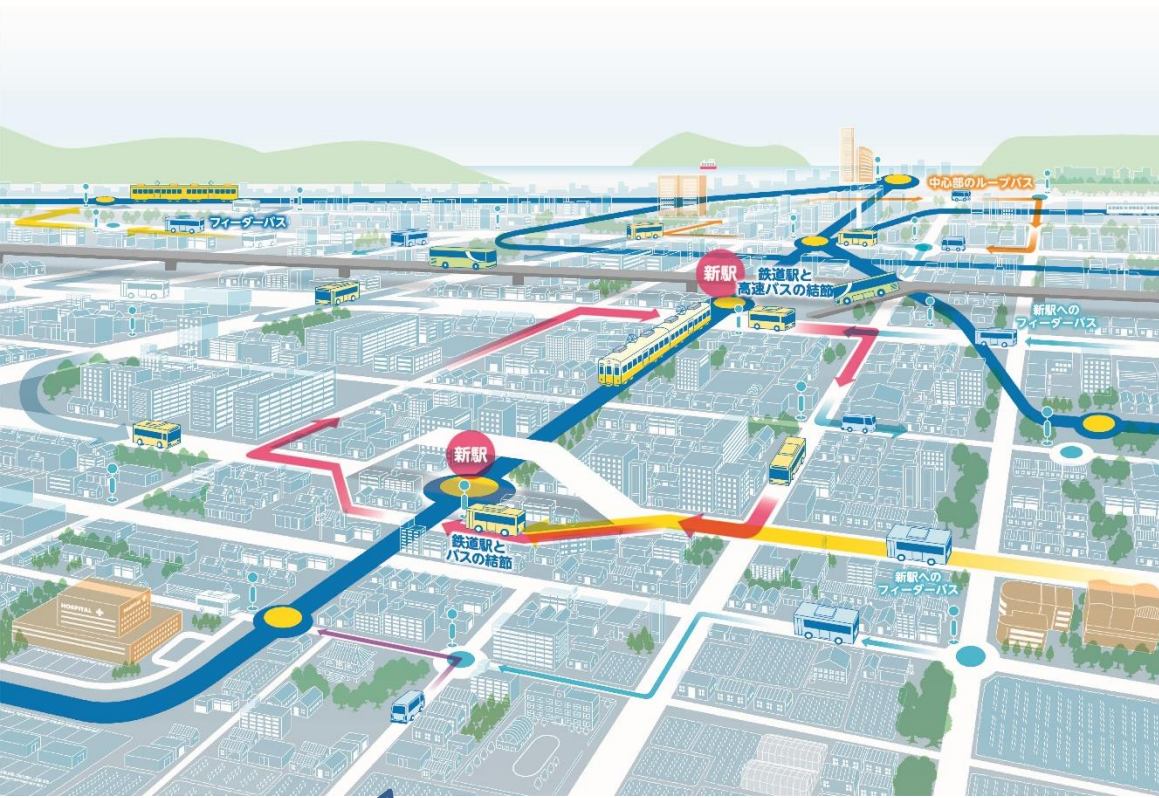
- ② バス路線空白地域や郊外部拠点施設へのアクセス性の確保  
⇒ 上記地域・施設と公共交通結節拠点を經由する循環系統の運行

- ③ 都心地域内の回遊性の向上  
⇒ 都心地域内の主要施設・拠点を有機的に連絡する循環系統の系統(まちなかループバス等の強化)



# 高松市の進めるまちづくり

「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えの下、鉄道を基軸としたバス路線の再編により、持続可能な公共交通ネットワークを再構築し、集約されたまちを公共交通で繋ぐ。



## 交通結節拠点

- 既存ストックを活用
- 鉄道を基軸としたバス路線の再編を行い、まちづくりに寄与するものとなるよう検討・整備する。

## バス路線再編

- 既存路線のスクラップと新規路線のビルドを、パッケージにより一体的に行う。

## サービス水準

- 再編により発生する、鉄道とバスとの乗継ぎを促進するため運賃や時間的抵抗を軽減し、再編後においても、サービス水準を維持する。

各視点において、持続可能なモデルとしての実行性を高めるため、行政と事業者が連携して計画・施策展開する。

高松モデル

持続可能な公共交通ネットワークの再構築を、一定のサービス水準を維持しながら実現